

NHO～こんな取り組みやっています～

オシャレを楽しんで“拍手・笑顔・涙”あり
障がい児・者病棟での
ファッションショー
長良医療センター



「生命と生活の質、そして人生の質をどう高めていけるか」。そう話してくれたのは、長良医療センターの藤森豊さん(療育指導室長)です。その実現には医師や看護師だけでなく、あらゆる職種がチームとなって患者さんに寄り添うことが必要であり、特に障がい児・者病棟では、一生この病棟で過ごす方もいらっしゃいます。だからこそ、ささやかな喜びに結びつけばと行事を工夫、中でも注目されたのが入院中の患者さんが主役の“ファッションショー”でした。



2010年からスタートしたこのイベントは今年で早くも7回目、きっかけはファッション誌をよく見ていた患者さんへの「こんな洋服を着てみたい?」という医師の一言でした。人づてにこの話を聞いた名古屋ファッション・ビューティ専門学校(NFIT <旧校名>名古屋服飾専門学校)とのご縁が生まれたといいます。以来、

同校の学生さんたちが同院を訪れ、毎回3～4人の患者さんの好みを探り、採寸してデザイン画を描き、そのお披露目としてファッションショーを開催しています。心身の両方に重い障がいがある方は、親御さんや看護師・保育士も頭をひねり、“こんな色が好み？”と経験から想像して学生さんに伝えています。



患者さんに対して「どこまで本人の希望に添えたかは…」と藤森さん。でも、親御さんにしてみれば、わが子にここまでしてくれたということがうれしく、涙を流される親御さんも多いといえます。また、

「偏見をなくし広い視野をもつこと、人の役に立てるという自信など、学生たち



が学んだこともたくさんある」と協力を続けている NFIT の前田かおる副校長は、その波及効果を教えてくれました。

好みの服を着る、私たちにとって何気ない日常が、障がい児・者病棟の患者さんにご家族にとっては、とても貴重な体験なのです。

■長良医療センター（岐阜市）



全国的にも大規模な重症心身障がい児・者医療体制を備え、医学以外の領域も総動員して、“その人らしく”をモットーに、患者さんやご家族に寄り添う医療を実践している。